

# 宮城県林業普及活動情報

2024. 7月号 No. 194

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2~12

- 森林経営管理制度の取組推進に向けた支援 (大河原地方振興事務所)
- R5及びR6森林経営管理制度市町村伴走支援 (大河原地方振興事務所)
- ツヤハダゴマダラカミキリによる被害状況の確認及び防除方法の指導 (大河原地方振興事務所)
- せんなんマルシェin大河原合同庁舎の開催 (大河原地方振興事務所)
- 大崎森林組合推進委員への情報提供等 (北部地方振興事務所)
- 第48回全国育樹祭(R7秋:宮城県開催)をPR (北部地方振興事務所)
- みやぎ児童・生徒木工工作コンクールを通じた木育の検討 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「苔育活動」の取組 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 親子木工教室開催支援 (東部地方振興事務所)
- 菌床きくらの生産性向上に向けた指導 (東部地方振興事務所)
- 津山町林業研究会林業体験活動支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- FSC-FM認証の年次監査を支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼・南三陸産メンマ 乾燥工程の支援 (気仙沼地方振興事務所)
- ANAこころの森活動支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 慶応義塾中等部への森林環境教育支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 林業作業士(フォレストワーカー)1年目研修を支援 (林業技術総合センター)
- 林業教室選択講座(林業機械)の開催 (林業技術総合センター)
- 令和6年度宮城県新規林業就業者育成支援研修(第6回)を支援 (林業技術総合センター)
- 宮城県林業研究会連絡協議会令和6年度第3回役員会の開催 (林業技術総合センター)

## 森林経営管理制度の取組推進に向けた支援

大河原地方振興事務所

【11日(木)、24日(水)】

当管内の2町において、森林経営管理制度の取組に向けた打合せを行いました。両町では、当該制度を進めるため、これまで森林所有者への意向確認、森林簿をはじめとした基礎データの整理による優先順位付け、並びに現況調査等の準備を行ってきました。

今年度はこれらに基づき、集積計画を作成することとしており、打ち合わせでは、集積計画の考え方や具体的な作成方法等についてアドバイス等を行い、関係者で情報を共有、整理することで、次へのステップが明確になりました。

引き続き、制度に対する取組が円滑に進むよう、必要な指導・助言を行ってまいります。



【当日の様子】

## R5及びR6森林経営管理制度市町村伴走支援

大河原地方振興事務所

【24日(水)、30日(火)】

白石市で、昨年度から集積計画を作成している2地区について、航空写真等で樹種等の判別が難しい箇所について24日に現況確認を行い、それをもとに集積計画を再度整理し、30日にR6伴走支援の第1回目の打合せを行いました。

修正した案を第1回打合せで示し、再度修正した案で8月中旬から、森林所有者に説明して意向確認し、9月頃の公告を目指すことになりました。

引き続き、進捗状況を確認しながら、関係機関と連携を図りながら継続して指導助言を行ってまいります。



【打合せの様子】

## ツヤハダゴマダラカミキリによる被害状況の確認及び防除方法の指導

大河原地方振興事務所

【25日(木)】

川崎町の国営みちのく杜の湖畔公園内において、特定外来生物であるツヤハダゴマダラカミキリを計10個体捕殺し、公園内の樹木に被害が疑われる個体がある旨の連絡を受けたことから、周辺森林への拡大を防止するため被害状況の確認と防除方法について指導を行いました。



【防除方法に関する指導】

被害を受けたヤナギ類の樹木2個体の状況を確認したところ、多数の脱出孔が見られたことから、同昆虫による被害の可能性が考えられたため、被害拡大を防止する観点から被害個体の伐採と焼却もしくは破砕処理を早急に行うよう指導しました。

当管内ではツヤハダゴマダラカミキリによる街路樹や公園内の樹木への被害が近年相次いで確認されていることから、森林への被害拡大防止のため、生息状況等の情報収集を行い、防除に努めてまいります。



【被害状況の確認】

## せんなんマルシェ in大河原合同庁舎の開催

大河原地方振興事務所

【26日(金)】

当所の各部と連携し、仙南地区の農林産物や加工品等を広くPRする販売会を開催しました。

今回の販売会では、仙南地域のたけのこ加工品、夏野菜、スイーツ等の販売を行い、消費者に向けて幅広くPRを行いました。

多様な内容で来客数も多く、山の幸の魅力を伝える良い機会となりました。また、全国育樹祭記念行事に位置づけていることから、林産物販売店舗で買い物をした方対象に、木製カプセルトイによる抽選会を行い、こちらも併せてPRを行いました。

今後も、仙南の山の幸の販路拡大に向け、生産者支援を継続していきます。



【マルシェの様子】



【木製カプセルトイによる抽選会】

## 大崎森林組合推進委員会への情報提供等

北部地方振興事務所

【9日(火)、10日(水)】

大崎森林組合の推進委員会において、「林業労働災害防止」、「森林環境譲与税とみやぎ環境税の概要」、「再造林に係る補助事業」等を説明する機会を得て、普及指導員が各日分担して対応しました。

パンフレット等を使用した説明により、林業を取り巻く現状の一端と、再造林に係る補助事業の概要を理解していただくことができました。



【推進委員会の様子】

今後も森林組合の協力を得ながら、機会を捉えてPR等を行ってまいります。



【推進委員会の様子】

## 第48回全国育樹祭（R7秋：宮城県開催）をPR

北部地方振興事務所

【18日(木)】

来年度（R7）秋に宮城県で初めて開催される「全国育樹祭」のPRとして、当部で制作したコースター20枚を、7月20日（土）・21日（日）に開催される『「東北のへそ」三県交流まつり』で使用される景品の一つとして地方振興部へ提供しました。

当日は、県外からの来場者も見込まれるイベントでの「広報」と「木材利用促進」に寄与することが期待されました。



【作製したコースター】



【主催者（地方振興部）への提供】

## みやぎ児童・生徒木工工作コンクールを通じた木育の検討

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【19日(金)】

栗原地域事務所では近年、みやぎ児童・生徒木工工作コンクール栗原地区予備審査会に応募していただいた児童・生徒を対象に、多様な木材の魅力を知ってもらうため、登米市津山町の木工工房"kamone"（カモネ）と協力し、参加賞及び優秀賞賞品として木工品を製作・進呈することで、木材の質感を楽しんでもらう取組を行っています。

今年度も"kamone"工房において、児童・生徒に喜ばれつつ、木育にも資する賞品となるよう仕様を検討しました。

"kamone"の入岡知美さんと意見を交換しながら、木材固有の質感・色彩をもとに賞品の仕様を考えた結果、とくに、優秀賞賞品とする「ペン立て」については、四角柱の側方四面にそれぞれ違う樹種の広葉樹板を配し、各面に樹種名をレーザー刻印することで、樹種と質感とを比較できるものとなりました。



【写真のペン立てをベースに多様な樹種を楽しめる仕様に変えていきます】

## 「苔育活動」の取組

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【19日(金)】

栗原市立花山小学校は、課外授業として、製材工場や伐採現場の見学、ハタケシメジの栽培実習を行うなど、地域の産業や環境を活かした森林・林業学習に取り組んでいます。

そんな中、花山地区は聖地化を進めている「苔」の生育環境にも適した地域であることから、花山小学校に対し5・6年生の総合学習の時間に、くりはら苔アンバサダーバンクを活用した「苔育（苔の育成をとおした環境学習）」に取り組んでいただくよう提案を行いました。

当日は、小学生向けの自作テキストを持参し、5・6年生の担当教諭に「苔と他の植物との違い」など、カリキュラム内容を説明しました。また、実習として児童に作製いただく苔テラリウムのサンプルを使い、苔の生態や管理方法等についても説明を行いました。その結果、9月18日の総合学習の時間を、全校児童を対象とした「苔育活動」として提供いただけることとなりました。

このように、地域の小学生が地域の自然環境に関心を持つ心を育む「苔育活動」を今後も継続していくこととしています。



【担当教諭に苔の特徴を説明しました】

## 親子木工教室開催支援

東部地方振興事務所

【2日(火)】

宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部が主催する親子木工教室で、森林の働きに係る講義など活動支援を行いました。

当日は、石巻市立北村小学校3、4年生21名と保護者が参加し、石巻地域のスギを用いたキットで本棚を製作しました。

森林の働きに係る講義は、紙芝居形式で行い、小学生にも分かりやすいものを目指しました。地球温暖化などのキーワードに子どもたちが興味を示しており、森林と環境保全の結びつきについて理解が得られました。また、親子木工教室は、森林組合職員と普及員が協力してサポートを行い、ほとんどの児童が本棚の製作を時間内に終えることができました。

子どもたちが木材に直接触れる貴重な機会であるため、引き続き支援を進めていきます。



【森林の働きに関する講義】

## 菌床きくらげの生産性向上に向けた指導

東部地方振興事務所

【23日(火)】

農業用ハウスを活用し、夏期に菌床きくらげの栽培に取り組んでいる生産者より、栽培方法の改善に関する相談を受けたことから、菌床メーカーの担当者とともに、生産指導を行いました。

現状の栽培方法を確認したところ、夜間の水管理の不足や日中の高温などによる形質の悪化が見られました。

このため、タイマー方式による夜間の散水や施設改修による温度コントロールなどについて提案し、来年の栽培に取りかかる前までに施設の改善に取り組むこととなりました。

引き続き、生産性・品質向上に向けた指導に取り組んでいきます。



【生産指導の様子】

## 津山町林業研究会林業体験活動支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【11日(木)】

津山町林業研究会が古川工業高等学校建築科生徒に実施する林業体験を支援しました。

林業体験は、同高の生徒が植栽した森林の手鎌による下刈り作業で、今年は第48回全国育樹祭の記念行事に認定されての実施となりました。作業終了後、下刈りの必要性をはじめ、森林の造林保育や全国育樹祭について講話を行いました。生徒から木材がどのように生産されているのか知ることができたとの感想があり、森林の育成について理解を得ることができました。



【体験終了後の記念撮影】

## FSC-FM認証の年次監査を支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【25日(木)～26日(金)】

登米市森林管理協議会ではFSC-FM認証を取得してから8年目となり、FSCの原則に則した取組がなされているか年次監査が行われました。雨の中、造林や間伐等の実施箇所で現地審査や作業員へのインタビューがあり、2日目には書類審査が行われ、今後必要な改善策等について情報共有するとともに支援を継続することになりました。



【書類審査の様子】

## 気仙沼・南三陸産メンマ 乾燥工程の支援

気仙沼地方振興事務所

【9日(火)・12日(金)・18日(木)・22日(月)】

今年度からメンマづくりに取組んでいる気仙沼市及び南三陸町の生産者に対して、乾燥工程の支援を行いました。

メンマづくりの工程としては、これまでに塩漬け、乳酸発酵まで完成しており、残す工程は、乾燥工程のみとなります。

乾燥前のメンマは塩分を多く含んでおり、非常に乾きにくいという特徴があり、比較的天気の良い時期を見越して乾燥を開始する必要があります。

また、乾燥の際には、カビ発生対策として、極力重ならないように並べることや、風通し



【作業中の様子（南三陸）】

のよい環境で乾かすように指導しました。お天気祭りの成果か、各生産者ともに無事にメンマの乾燥工程が完了しており、水戻し後に味付けをすれば国産メンマの完成です。

なお、気仙沼市の生産者に対しては、今後、道の駅大谷海岸や軽トラ市での販売を想定した商品名を提案し、最終的には「特選上つじメンマ」に決定しました。

南三陸町では、グループでメンマづくりに取り組んでいることから、メンマが完成した際にはグループ内で試食会を行うことを検討しているため、完成後のイベント実施や販路の開拓についても、継続して支援してまいります。



【作業中の様子（南三陸）】

## ANAこころの森活動支援

気仙沼地方振興事務所

【8日(月)】

ANAグループが南三陸町で展開する「ANAこころの森」森林保全活動の実施に当たり、世話役である南三陸森林組合及び森林所有者である、入谷生産森林組合と共同で、森林保全活動の支援及び森林・林業に関する講話を行いました。

今年度は、ANAグループ職員35名が参加しており、南三陸地域でもシカによる樹木の皮剥被害など増加傾向にあることから、ANAこころの森のヒノキ林に獣害対策として防護テープの巻き付け作業を実施しました。

参加者は悪戦苦闘しながらも、作業を行っていましたが、普段立ち入ることの少ない森林内で、森林浴や登山を楽しみながら森林保全活動に努めていました。

また、県からはFSC製品を選択して購入することで誰でも気軽にSDGsに貢献出来ることや、獣害対策等について講話を行い、森林・林業について興味を持って頂きました。

こういった企業によるCSR活動がPRされることにより、更に波及し、地域の森林整備や地域材需要拡大につながることを期待して、今後も支援を継続してまいります。



【防護テープ作業実演】



【作業状況】

## 慶応義塾中等部への森林環境教育支援 気仙沼地方振興事務所

【13日(木)】

南三陸森林管理協議会が支援している、慶応義塾中等部（240名）の森林環境教育について、南三陸森林管理協議会より支援依頼があったことから、学校林登山や森林・林業に関する講話など現地で支援を行いました。

2日間計3グループに分けて、慶応義塾大学学校林の登山及び森林・林業に関する講話を、学校林の管理を実施している南三陸森林組合と合同で対応しました。

あいにくの雨の中ではありますが、普段、立ち入ることの無い森林の中を散策することで、植物の匂い体験（クロモジ）や貯水効果など森林の重要性について体感してもらおうことが出来ました。また、講話では、最近、目撃情報が多いクマの生態や出会った際の対処方法などについて、クイズ形式で行い、活発な珍回答？が出されるなど、森林・林業について興味を持つ一助となりました。

今回、登った登山道は、先輩である慶応義塾大学生の有志が整備したものであり、老朽化も懸念されるため、将来は、先輩方の意思を引き継ぎ、是非、学校林や登山道の整備に戻ってきて頂きたいです。



【クロモジの匂い体験】



【シンボルツリーである一本杉にて講話】

## 林業作業士（フォレストワーカー）1 年目研修を支援

林業技術総合センター

【5日(金)・8日(月)】

当所研修棟他において、公益財団法人みやぎ林業活性化基金宮城県林業労働力確保支援センターが17名の研修生を得て、開催した標記研修会の講師依頼に対応し、「フォレストワーカー研修テキスト」に沿って1日目に造林・育林・間伐の基礎、2日目に森林情報の基礎と立木調査、コンパス測量の方法について講義するとともに、知識を補うために実技研修を実施しました。

実技研修は、1日目がプロットサンプリングと間伐対象木の選定、2日目が同上林分・間伐材積の算出。ワイゼー測高器・ブルーメライスの使用方法及びコンパス測量と製図です。

これからも、林業従事者の育成研修を支援



【講義の様様】



【間伐実習】



【実習を終えて(1班)】



【実習を終えて(2班)】

します。



【コンパス測量実習】

## 林業教室選択講座（林業機械）の開催

林業技術総合センター

【9日(火)】

当所林業機械実習舎他において、11名の研究生を得て、例年開催している林業教室を開催しました。

終日荒天であったので、ドローンの知識(試験研究部 高橋研究員)を座学、また、林業における事故防止の観点から、樹高と水平距離の目測技能の向上と伐倒時の安全確認方法・自身の身の守り方、チルホール・簡易ウインチの滑車を用いた丸太牽引技術、刈払機の刃研ぎ及び安全装具の装着と使用方法の実技について学んでいただきました。

次回は、チェーンソーについて少し詳しく学んでいただきます。



【高橋一太研究員によるドローン講習】



【チルホールの実技研修】

## 令和6年度宮城県新規林業就業者育成支援研修(第6回)を支援

林業技術総合センター

【14日(日)】

当所林業機械実習舎他において公益財団法人みやぎ林業活性化基金宮城県林業労働力確保支援センターが9名の研修生を得て開催した標記研修会の講師依頼に対応し、午前と午後、各1組の伐木等特別教育修了者に3時間強のチェーンソー技能講習を実施しました。

事故防止に必要な樹高と水平距離の目測技術、錯視の認識、片足バランスの確認及びコミュニケーションの必要性をはじめに周知しました。次いで、チェンブレイキの使用手法。刃幅の間隙へ、左・右・下方向から刃付きガイドバーを出し入れする実習を行い、その時の歩幅、足の置き方、腕の構え、姿勢、基本動作を学習いただきました。短い時間の中で、垂直丸太の左右からの鋸断実習や、混合燃料の作成方法、チェーンソーの目立て方法まで教えるのが精一杯でした。駆け足の講義でしたので、就業先における職場内教育による技能向上を大いに期待します。



【研修の状況】

## 宮城県林業研究会連絡協議会令和6年度第3回役員会の開催

林業技術総合センター

【27日(土)】

当所旧本館2階第2会議室において、標記役員会が開催され、8月29日(木)及び8月30日(金)の両日開催予定の北海道・東北ブロック令和6年度林業グループコンクールの座席配置・シナリオ・役割分担等が検討されました。その結果、会場となるホテルの会議室や意見交換会の2次会場の下見、海藤氏との講演会の打合せのため、開催日までに第4回役員会を開催することになりました。



【役員会の様子】